



議員 誠 深沢 公明党



高齢者保健福祉の向上対策について

問 紙おむつ給付事業について、所得制限および費用負担の見直しによる対象拡充、並びに宅配便を活用した配達方式への変更などの対応について伺います。

答 保健福祉部長 介護保険特別会計での介護用品を支給する事業については、廃止または縮小するよう国から通知されていることもあり、所得制限を見直し、対象者を拡大することは、現状においては難しいものと考えています。

なお、宅配便などを活用した宅配方式の導入については、今後、利用者アンケート等を実施し、変化するニーズを把握する中で、検討させていただければと思います。

問 排せつケアに関する相談体制

の強化について伺います。

答 保健福祉部長 ニーズの高さを踏まえ、より一層適切な排せつケアに関する相談などに対応していきたいと考えています。

また、対応職員のスキルアップのためにも、排せつケアに関する専門的な機関などからの情報収集を図り、より一層の情報提供体制の強化に取り組んでいきます。

問 地域包括支援センター設置の認知度向上についての取組を伺います。

答 市長 今後も高齢者が増加する中、気軽に相談できる窓口である地域包括支援センターは、ますます重要となっていくことは必須です。親しみやすい愛称やフレーズの検討、認知度を高めるための看板やプレートの設置など、市民に認知されるような政策に取り組んでいきます。

使用済み紙おむつの資源化について

問 使用済み紙おむつの資源化に対する市としての認識を伺います。

答 建設環境部長 高齢化の進展に伴い、紙おむつの消費が年々増加することが予測されますので、可燃ごみの減量化を図るためにも、使用済み紙おむつを、今後、資源化していく必要性は高いと認識しています。

問 紙おむつ資源化を前提とした排出量等調査について伺います。

答 建設環境部長 使用済み紙おむつを資源化するうえでは、排出量などの実態把握や将来推計は必要であると考えます。

処理先である清掃組合や構成市町との調整が必要となりますので、今後、資源化の可能性も含め、検証していきます。

問 民間企業との連携について伺います。

答 建設環境部長 紙おむつの資源化にあたっては、経費面からも、収集運搬や処理業務においても民間活用は欠かせないものと認識しています。

先進的な民間企業を調査研究し、今後の使用済み紙おむつ資源化の参考とさせていただきます。

バイオマスの利活用について

問 バイオマス産業都市構想への応募について伺います。

答 市長 国が支援する、バイオマス産業を軸とした経済性が確保された、一貫したシステムを構築するバイオマス産業都市の実現は、ゼロカーボンシティの推進に大きく寄与するものであると私は捉えています。

しかし、現在の山武市の状況から考えますと、単独でシステム構築は大変難しいものがありますので、近隣市町、県、民間企業・団体と連携が不可欠であると考えています。

まずは、市として、森林づくりについて、今年度設立する審議会で、森林整備や木材利用の促進について審議し、着実に進めていきたいと思っております。

問 サンブスギの有効活用について伺います。

答 総務部長 本市では、公共建築物等における木材利用促進方針を定め、地域産材を利用した木造化、木質化等の促進に努めています。

今後もサンブスギなどの木材の利活用については、啓発も含め、いろいろな場面で利用することによって、資源の有効活用に取り組んでいくとともに、市のPRにもつなげていきたいと考えています。

